

テーマ「不登校の未然防止と早期対応：クラスの中での人間関係づくり  
～構成的グループエンカウンター（SGE）の演習を取り入れて～」

講師：住本 克彦（新見公立大学・新見公立短期大学 教授）

## 1 はじめに

カウンセリング・教育の場において、個別のリレーションを形成していく上で重要なことは信頼関係を築いていくということである（河合隼雄・國分康孝 各先生）。國分エンカウンターを実践するにあたって、先生から公認リーダーの資格を得ている（各県下で1人）。今回はエンカウンターのエキス、不登校の予防・未然防止、課題解決型のエンカウンター（明日からでも使える具体的な実践）を紹介する。

### (1) 命の教育

学級経営は、命の教育、心の教育をベースにしている。「教育は人なり、命の教育ももちろん人なり。教師自身が自分の命・人生・家族とどう向き合うか。これらをなくして、教壇に立ち命の教育を実践することはできない」（河合隼雄・國分康孝・梶田叡一・日野原重明・養老孟司 各先生）

### (2) エンカウンター

エンカウンターは単なるスキルであり、実施することが目標ではない。子どもたちの生きる力・自己実現をサポートしていくために手段として利用していくものである。また、不登校の背景には、いじめによる場合もある。参考：「エンカウンターで不登校対応は変わる」「エンカウンターでアクティブラーニング」

### (3) 事例より

ア A県での発達障害が背景にある非常に難しい事例（反抗挑戦性発達障害、色んな発達障害が重なりあっているケース）の対応が順調に進んでいる。中学2年生のケース検討会に幼稚園から現在までの担任全員と医師が集まり「このかかわりが良かった」という情報をその場で確認し合っている。

イ B県の発達障害を背景に持つ中学生に対し、ゴールテープ方式でかかわりを持ったところ、3ヶ月で様子が変わった。行事（学級・学年・学校）の度、担任がグッドジョブカードを渡し続けた。「〇〇くんが△△で頑張っていたよ（担任名）。」10枚貯まると、校長名で渡す。ポイントは心を込めてカードを作るのである。

### (4) 個別のリレーションの形成

但馬やまびこの郷ではすべての子どもたちのカルテが作られ、どのようなかかわり方をしたら、彼等の生きる力・自己実現をサポートできるかがケース会議で話し合われる。個に向き合うことがポイントである。

山中康裕 先生が提唱する「心の窓」も効果がある。「心の窓」とは子どもが社会に対して開いている窓のことを表している。例えばギターが得意な子には、とことん教えてもらうことで、その子自身が自己肯定感を高めていくのである。我々が育てないといけないのは、自尊感情であり「よ〜く頑張っていたよね」「あれだけ頑張ったら納得できるんじゃないの」「自分自身を褒めてあげたらどう」という声かけで、結果ではなく過程を認めていくことが重要である。

## 2 構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter）

エンカウンターは「いいところ探し」に始まり「いいところ探し」に終わる。その中で自己肯定感を高めていく効果がある。高等学校から学級経営・学級づくりの依頼を受けることが多く、教室での居場所や友人間の絆が実感でき、学力の向上につながっていくのではないかと考えている。

構成的とは「条件をつける」ということであり、時間・人数・テーマの3つの条件である。例えば「今から3分以内で5人のグループで、～のテーマについて話し合いなさい」となる。

構成的グループエンカウンター（以下SGEと略）は全ての子どもたちを対象としたカウンセリング技法の一つであり、問題解決型のSGEは不登校になっている子どもたちに対して効果があると報告されている。子どもたちにカウンセリングマインドを持って寄り添い、自己実現をサポートしていくための手段としてSGEを利用していくことがポイントであり、教師自身の自己開示がキーワードとなる。

#### (1) SGEの理念

##### ア 実施上の約束（3点）

- (ア) 子ども心を高める（フリーチャイルド）
- (イ) 守秘義務（出てきた内容については、この場限りとする）
- (ウ) 相手を受け止め、受け入れる

##### イ SGEの構成

- (ア) インストラクション
- (イ) デモンストレーション
- (ウ) エクササイズ
- (エ) シェアリング

※(ア)(イ)は実際にやって見せ、くどくど説明しない。

※(エ)で起こる沈黙を大事にする。自己内対話で「中々言いにくいものだな、内面を語るというのはこんなに難しいことなんだな」ということを実感する。その体験があれば「君、よく言えたね。先生だったら言えないよ。君、すごいよ」と本音の言葉が出る。これが國分エンカウンターである。

##### ウ SGEのねらい

「自己理解」「他者理解」「自己受容」「自己主張」「信頼体験」「感受性の促進」

#### (2) 自己開示

「自分を開く、示す、本音を語る、胸襟を開く」ことであり「子どもに心を開くことを求めるならば、教師自身が自らの心を開くことをためらうことなかれ」（國分エンカウターのキーワード）。SGEを実施したが上手くいかなかった場合、どんな自己開示をしたかを確認する事が大切である。

#### (3) C教育大学の保護者から学んだこと

- ア 好きなことに没頭すると心のエネルギーがたまる：好きなことを一生懸命しているうちに、嫌なことを忘れる。
- イ 受け止めてくれる人がいれば心のエネルギーがたまる：子どもたちにとってのキーパーソンの存在。但馬やまびこの郷では、キーパーソンになり得るかが試されている。
- ウ 人生とは思い通りにいかないものであり、絶えず軌道修正しながら進んでいくことである。

#### (4) エクササイズを通して

##### ア ガチャガチャトーク

ねらいは他者理解。相手のことを知ることで人間関係を作っていく。自然体で、違和感なく、逆らわず、受け止めていく。

##### イ パーソナルスペース

お互いに握手できる距離がコミュニケーションを取りやすく、最適であると言われている。グループワークの際でも、保護者と会う場合でもこの距離で行うのが良い。向き合い方では、対面法は相手に威圧感を与えてしまうため、自然に視線を外すことができる直角法が良い。（カウンセリングの場面でよく使われる）正面になってしまったなら、少しずれると良い。

##### ウ サイコロトーク、サイコロトーク

学級崩壊しているクラスに非常に効果がある。子どもたちの実態や発達に応じた項目を考えておく。エンカウンターを実施する場合、教師の自己開示を多用していく。「先生もうれしいよ」の一言が子どもたちの自己肯定感を高めていく。

## エ 色紙を送る

エンカウンターの場合は最初に教師が記入する。メッセージの質が広がっていく効果がある。説明とともに自己開示、本音の語りかけをするとともにモデルを示す。教師自身がどんなメッセージを子どもたちに贈ることができるかがポイントとなる。

## オ 2分の1成人式

「いつも〇〇は私の味方だ」のような関係を作っていくことは、不登校の子どもたちをサポートする上で非常に重要である。子どもたちが「あの先生がいるから学校へ行ってみよう。学校へ行けなくてもあの先生がいてくれるだけでホッとできる。あの先生がいるから頑張ってみよう」という思いを持つ事ができる。

どのようなタイミングで、どのような言葉掛けをして具体的に褒め、自己肯定感を高めていくかということが重要である。また、子どもによっては「僕の今や」「僕は今こんな状態だよ」などという非言語メッセージを受け取ることの大切さ、我々自身が感性を磨いていくことも非常に大事である。

## カ その他、不登校の子どもたちに対して有効なエクササイズ

- (ア) 保護者の見方を変える「リフレーミング」
- (イ) 教師の上着を脱ぐ「家庭訪問の予行演習」
- (ウ) 自己肯定感を高める「私の好きなこと」
- (エ) 再登校に挑戦する「私のお願い聞いて」
- (オ) 新たな自分を生きるための「人生の振り返り」  
こころの教育総合センターにアクセスすると、動画での説明がある。
- (カ) 予防エクササイズ「ホットシート」
- (キ) 「いいところ探し」「夏休み作品カード」
- (ク) 「一言自己紹介」
- (ケ) 「いつ、どこで、誰にどんな影響を受けたか」

※SGE辞典(図書文化社)では、エクササイズが500程度考えられている。

## (5) エクササイズの展開

### ア グルーピング

《例》 2人組→3人組→男女混合3人組(徐々に話しやすい環境を作る)

《注目点》・いきなり7~8人組だと自己開示は中々できない。

- ・2人組は相手が限定されてしまい「あいつとは一緒になりたくなかった」というグループができてしまう可能性がある。3人組の場合はそのリスクがかなり低くなってくる。
- ・パーソナルスペースでは2人組よりも3人組の時のほうが自然と角度が付き、自然に視線を外して話しやすくなる。

### イ エクササイズ

《例》「ニックネームを考えよう」→「みんなでイエイ」→「ニックネームのいわれを語る」

《注目点》・子どもたちが参加していきやすくなるように構成する。

- ・リーダー(教師)は表情を観察しながら巡回し「〇〇ちゃんは上手く身振り手振りをしていて、他の子たちは非常に表情よくうなずいている」と全体で取り上げ、カウンセリングマインドを持ってリードしていく。
- ・アクティブラーニングでも活用できる。

### ウ シェアリング

《例》「あなたってステキだ」

《注目点》・用紙に自分のニックネームを書いて順次回し「あなたのここが素晴らしいなと思いました」「笑顔がステキですね」などと記入し、いいところ探しを行う。

- ・「切りのいいところで終わってください」という言葉を添える。

大人数では中々話しにくく、グループシェアリング・グループになると話しやすいものである。そうした中でお互い心を開いて印象を語り合い、自己肯定感を高めていくことが但馬やまびこの郷でも日常的に実践されている國分エンカウンターである。